

平成30年度 第2回 埼玉県社会教育委員会議 会議録

1 日 時 平成30年11月6日(火) 13:30～14:50

2 会 場 J A埼玉県信連浦和分館 会議室A

3 出席した委員 (14人)

井深 道子 委員、植田 富美子 委員、風間 重文 委員、木村 直美 委員、
西村 平雪 委員、林 俊幸 委員、春山 教子 委員、和田 明広 委員、
小出 敦子 委員、関根 正昌 委員、寺山 昌文 委員、中野 洋恵 委員、
羽石 貴裕 委員、山本 和人 委員

4 欠席した委員 (6人)

内田 修弘 委員、比嘉 里奈 委員、青山 鉄兵 委員、有田 るみ子 委員、
柿沼 トミ子 委員、笛木 正司 委員

5 あいさつ

埼玉県教育局市町村支援部 佐藤 裕之 副部長

6 議事の経過

(1) 議長の開会宣言

(2) 会議の公開・非公開

議長が会議の公開・非公開を委員に諮り、公開とする。
傍聴者なし

(3) 会議録署名委員の指名

議長から春山 教子 委員と小出 敦子 委員が指名された。

(4) 議題及び経過

ア 議題

- 埼玉県社会教育委員会議建議案について
- 今後の日程について
- その他

イ 経過

建議案「すべての人が学び、活かし、支え合える地域社会づくりのために」について

議長 はじめに、埼玉県社会教育委員会建議案について、事務局より報告願いたい。

事務局 資料1について説明。

議長 説明に対して、ご質問があったらお願いしたい。

< 3グループに分かれて各章の内容について協議 >

第1章 埼玉県における社会教育と地域課題の現状

○埼玉県における社会教育の現状と「地域課題」の設定について

- ・ Society5.0 など馴染みのない用語については「注釈」をつけた方がよい。
- ・ 体裁の問題だが、6つの地域課題を目立たせるためにはゴシック体を使用した方がよい。
- ・ 「埼玉県生涯学習推進指針」を受けて生涯学習社会の望ましい姿や進むべき方向性を示したらどうか。
- ・ 平成27・28年度の建議『学びの循環』を広め、地域で学びの成果を活用するために」を受けて、県としてどのような施策が展開されたのかを現状として示した方がよい。
- ・ 平成27年度社会教育調査の「公民館における学級・講座の開設状況」において、埼玉県の家庭教育、家庭生活」に関する学級・講座が全国平均より大きく上回っているのもっと強調すべきである。また、そうなった理由は何か考えてみたらどうだろうか。
- ・ 埼玉県は地域課題解決に結び付く「学び」ができてきているのか。
- ・ 指針2と指針3を重点的に取り組むという見直しを受けての結果を示したらどうか。

○6つの「地域課題」の現状

①地域の防災教育

- ・ 自主防災組織の見直しについて、市町村や校区の境界を超える広域の防災組織や連携体制について検討する必要がある。
- ・ 防災リーダー養成に関する取組は、すでに多くの市町村で実施済みなので、本建議において表記する必要はないと考える。

②子育て支援

- ・ 県内の家庭教育支援チームの登録状況を示してはどうか。

③家庭や地域の教育力を生かした学習支援

- ・ 学校応援団と放課後子供教室の連携については、市町村教育委員会において、それぞれの担当部署が異なるために、連携を図りづらい現状がある。

⑤障害者の学習支援

- ・ 本建議において、「障害」の表記について確認してほしい。

第2章 様々な地域課題の解決に向けた糸口となるような共通の着眼点

○社会教育におけるPDCAサイクルについて

- ・PDCAをサイクル図に示したり、社会教育におけるPDCAの具体的な例を示したりするとわかりやすい。
- ・一方で、PDCAにこだわりすぎないことも必要である。

○地域課題解決のプロセスについて

- ・地域課題の解決に資する取組のプロセスでは、新たな課題へと発展するスパイラル状であることがわかるような図になると良い。
- ・図にある「プログラム・プロジェクトの編成」は、提供側の表現なので、「参画」等の地域住民側の表現を入れても良いのではないか。
- ・「資源、人材の投入」では、スクラップ&ビルドの考え方で、取組を減らしたり、辞めたりするという選択肢があっても良い。

○5つのアプローチについて

- ・5つのアプローチは、わかりやすく良いが、幅広い層に情報発信していくことが必要になる。
- ・本文や図に、『学び』の視点とあるが、「学び」の定義を示すことが必要ではないか。
- ・社会教育において地域課題解決を進めていく際には、「学び」が不可欠であると考えるので、「学び」の重要性が分かるように図に表すと良い。

○5つアプローチの図について

- ・5つのアプローチの図では、第3章と関連するが、アプローチの順序についても考慮する必要がある。
- ・「とらえる、見通す、練り上げる」は学びに対するインプット、「巻き込む、仕掛ける」はアウトプットというイメージがある。

○「とらえる」について

- ・現状、実態等をよく知り、把握することが重要である。
- ・現実を直視し、漏れがないようにすることも必要である。
- ・多面的、多角的にとらえることが必要である。

○「見通す」について

- ・希望を語ったり、理想を描いたりすることが重要である。
- ・長期、中期、短期と様々な期間をとらえて、見通すことも必要である。
- ・ビジョンを実現するための「ミッション」という表現も取り入れたい。

○「練り上げる」について

- ・「現実化」及び「実現化」を念頭に置き、住民の協働意識を高め、住民が参画できるような取組が望まれる。

○「巻き込む」について

- ・地域活動に参加していない層に向けて、「地域のみんなが関係者である」という住民の意識を高め、より多くの地域住民を巻き込んでいくことが必要である。
- ・地域課題の解決に向けて、住民同士が声を掛け合ったり、呼び掛け合ったりする関係性を築いていくことができれば良い。
- ・社会教育行政において、ネットワーク型行政の推進が重要視されていることを踏まえ、「他部局」の表記をより具体的に示した方が良い。

○「仕掛ける」について

- ・「仕掛ける」という表現には、戦略的な印象があるので、「働き掛ける」という表現でも良いと考えるが、戦略や策略と言った視点も重要である。

第3章 地域課題の解決に向けた社会教育としての方策

○全体的に

- ・具体的方策のイメージがわからないから具体的に何をするのかわからない。1から6までの方策はもっと具体的なものがよい。
- ・機会という言葉が多い。機会をつくれればよいのかと思われてしまうのではないか。

○1 地域の防災教育

【とらえる】

- ・各戸の人数等の実態を把握する。
- ・地域性が生かされているハザードマップを有効活用する。

【見通す】

- ・災害中と災害後の優先順位を明確にしていく。
- ・リスクマネジメントを検討する。
- ・地域の特色にあった自主防災組織を検討する。

【練り上げる】

- ・男女共同参画の立場からのリーダー育成をする。
- ・げんきプラザを活用した防災体験を実施する。
- ・知識だけでなく、危機感を感じる体験学習にしていく。

【巻き込む】

- ・小学校や中学校との連携を図る。
- ・PTAやおやじの会と連携を図る。

【仕掛ける】

- ・未就学児をもつ両親学級を行う。

○2 子育て支援

【とらえる】

- ・市（行政）社会福祉課・子育て支援課からの情報提供をお願いする。
- ・母子家庭、貧困にある家庭の実情調査を実施する。
- ・現状を把握する。

【見通す】

- ・公民館でなく、地域や民家を活用した出前事業化を計画する。

【練り上げる】

- ・親子にターゲットを当て、知恵の伝承と共学できる形にしていく。

【巻き込む】

- ・ネットワークの中にソーシャルネットを活用していく。
- ・多世代交流の機会を設けるとは、具体的にどうやっていくのか。
- ・社会福祉協議会を巻き込んでいく。

【仕掛ける】

- ・食育の大切さを知ることができる相談窓口を設置する。
- ・大人（保護者）のピアサポートを実施する。

○3 家庭や地域の教育力を生かした学習支援

【とらえる】

- ・現状を把握する際、学校職員の負担にならないように実施する。

【見通す】

- ・コミュニティ・スクールに向けてではなく、コミュニティ・スクールの推進とする。

【練り上げる】

- ・学校を核にした組織をつくり、実践していく。
- ・家庭学習アドバイザーを活用していく。
- ・部活動のない日は学校応援団を活用していく。

【巻き込む】

- ・PTA等の組織を活用し、保護者の学校への期待や不安を把握する、は見通すになるのではないか。
- ・シニア世代の活躍の場として巻き込んでいく。
- ・PTA組織の縮小を見据えて、その組織に替わる取組を実施する。

【仕掛ける】

○4 アクティブシニアの活躍や高齢者の支援

【とらえる】

- ・機械を機会に訂正する。
- ・どんな支援が必要なのかを把握する。

【見通す】

- ・アクティブシニアになりきれていない方の支援をする。

【練り上げる】

- ・潜在的なボランティア希望者を発掘する。

【巻き込む】

- ・定年退職した元教員の人材を活用する。

【仕掛ける】

- ・サークルづくりの支援をする。

○5 障害者の学習支援

【とらえる】

- ・障害者の学習要求を調査する。
- ・当事者にとっての学習ニーズを把握する。
- ・民間企業における障害者雇用の実態を把握する。
- ・障害者本人だけでなく、家族や地域として広くとらえる。

【見通す】

- ・障害者の年齢段階と学習の関係を検討する。
- ・障害者も社会貢献できる計画を立てる。

【練り上げる】

- ・社会教育に携わる方だけでなく学校関係者も、特別支援学校と連携することでシームレスな生涯学習の機会を提供できる。

【巻き込む】

- ・幼少期から正しい知識を普及する。
- ・協力し合い、学ぶ機会を多くする。

【仕掛ける】

- ・壁画などの障害者アートや学びの場に広げていく。
- ・小学校や中学校、高等学校ができる取組を広げていく。

○6 国際交流、多文化共生

【とらえる】

- ・地域に住む外国人の数を知る。
- ・地域ぐるみでの共生を試みる。
- ・宗教観や文化、慣習の違いを知る。

【見通す】

【練り上げる】

【巻き込む】

- ・地域自治会の協力体制（町会など）を整備する。
- ・子供がいる外国人は地域社会と比較的接点がある。子供がおらず、地域社会とあまり接点がない外国人をどう巻き込んでいくか。

【仕掛ける】

- ・未就学児から ALT などを活用した国際交流を実施する。

第4章 地域課題解決に資する先進的な取組

○防災教育について

- ・建設業界と市町村が連携した防災訓練を実施している事例もある。
- ・一般的な自治会防災訓練だと人が集まらないし、人が集まらない防災訓練は効果がないので何か付加価値を付けるなど工夫した防災訓練をしているところが挙げられるとよい。
- ・公益法人や企業が社会貢献を積極的に行っているの、いいものがあれば紹介できるとよい。
- ・阪神淡路大震災を経験しているので、ヘルメットとリュック、運動靴が防災グッズとして必要であることがよくわかっている、防災グッズについて明記できるか。

○子育て支援について

- ・子供だけに目を向けがちだが、親と子供の両方を支援する取組が大事である。
- ・子育て支援団体が単独で行っている状況だと効果は上がらないので行政がいかに旗振りをするかが大切である。
- ・子育て支援団体同士の情報交換を円滑にするために行政がどう関わっていくかが問われる。
- ・蕨市では、アウトメディア宣言やデートDV防止、LGBTの理解促進等の優良事例がある。

○家庭や地域の教育力を生かした学習支援について

- ・放課後や土曜日を活用した教育支援は大切だが、子供の時間にも限界があり「もう十分」という子供もいるのではないか。
- ・例えば、川越市内の中学校では、地域の学びの場として学校という場を積極的に提供している。
- ・地域の学びの場は、学校のように強制されない、子供の主体性も育つのではないか。
- ・地域の人材を活用した「寺子屋」のような学びの場を充実させることが、学校へのよい刺激となる
- ・子供食堂に通っていると、貧困層であると思われ、子供同士の差別感が生まれることもある。そのため参加しづらいということも考えられる。

○アクティブシニアの活躍や高齢者の支援について

- ・認知症の方が増えてくるだろうから地域全体で支えるための体制や学習が必要である。

○障害者の学習支援について

- ・障害のない人の障害者に対する理解促進がまずは大事である。

○国際交流、多文化共生について

- ・蕨市、川口市では中国人がものすごく増えてきている感じがする。
- ・日本人と外国人コミュニティとの交流がとても大事である。

議長 グループでの検討において沢山の御意見を頂いたことに感謝申し上げます。全体で共通理解しておきたい内容等があれば、御発言願いたい。

委員 地域社会とつながっているのは市町村である。

議長 第2章、第3章の主語となる部分については、協議の意見を踏まえて修正していく。

委員 誰が誰と何をするのかをもう少し具体的にするとよい。具体事例を1つでもよいので挙げる。事例がヒントになればよい。

今後の日程について

議長 次に、今後の日程について、事務局より説明願いたい。

事務局 資料4について説明。

<委員からの質問・意見なし>

その他

議長 その他、何かあるか。

<委員からの質問・意見なし>

議事まとめ

議長 次回の会議までに、事務局には建議案を作成していただきたい。それでは、本日の議事は以上で終了する。